

漁況予報 いわし

第150号

2008年11～12月漁期
(2008年11月14日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、9月が328トン、10月が103トン（速報値）で、前年同期（9月：38トン、10月：61トン）を上回り、過去5年平均比で4倍を超えました。前年は9月に漁獲量が急減しましたが、今年の落ち込みは小さく、資源量も前年より多いため好漁を維持しています。

佐島地区のまき網は、9月上旬と10月下旬の数日間にまとまった数量を漁獲し、近年では徐々に好漁となりました。

魚体は、体長13～16cmの中羽（2008年級・0歳魚）が主体で、1歳以上の大型個体はほとんど見られませんでした。

今後は、例年の状況から、水温の低下とともに徐々に漁獲量は減少するものと考えられます。2008年生まれの0歳魚は、春先に効率的に相模湾に流入したため、7月頃から好漁で推移していますが、太平洋系群全体の資源水準は決して高くはないため、マイワシ資源が回復したとは言えない状況です。

【かたくちいわし】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、9月が22トン、10月が7トン（速報値）で、前年同期（9月：45トン、10月：21トン）を下回り、過去5年平均比で約8%の漁獲量にとどまりました。

佐島地区のまき網は、9月、10月ともに少量を餌イワシとして漁獲しました。

魚体は、9cm未満の未成魚が主体でした。

太平洋系群全体の資源水準は依然として高いものの、2003年をピークに減少傾向にあり、2008年春季の産卵量や夏季の沖合域における未成魚分布量が低調であったことから、漁獲量の大きな増加は考えにくい状況です。

【しらす】

9月、10月2ヶ月間の漁獲量は、過去5年平均比で60%、好漁であった前年比で36%にとどまり、相模湾全域で低調な漁模様でした。また、1網あたりの漁獲量は徐々に減少しており、10月の平均値は5kg程度でした。

例年と同様に9月以降の湾内の卵分布量は減少しているため、湾外からの大規模なしらすの来遊に期待したいところですが、成魚の資源状況や海況等に好条件は見当たらない状況です。

＝ 予報 ＝

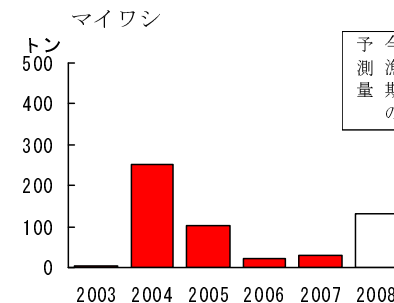
まいわし

今漁期は、今年生まれの中羽マイワシが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、10月の県内主要定置及びまき網の漁獲量から、約130トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網

過去5年の11・12月漁期の漁獲量と今漁期の予測量



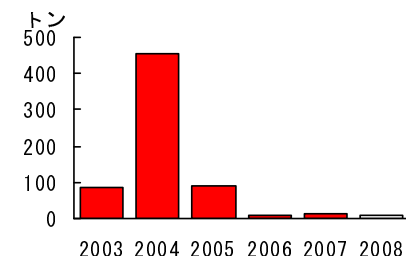
かたくちいわし

今漁期は、未成魚が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、9～10月の県内主要定置網における漁獲量から、約10トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網

カタクチイワシ



しらす

今漁期は、9～10月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、10月の漁獲量から、約20トンと予測されます。

シラス

